

授業に役立つ小ネタ

## 題材名 6年 歌声をひびかせて心をつなげよう 『二部合唱は難しい?』

鳥屋野小学校  
大平めぐみ

題材曲 「明日という大空」「つばさをください」

高学年になると、歌唱曲のほとんどが二部合唱、時には三部合唱になります。中学年の時に比べて歌声が小さくなってしまふことが多い高学年。二部合唱しているはずなのにいつの間にか斉唱になり、本人たちはしているつもり、なんていうこともあります。

どうしたら二部合唱の敷居を低くできるか、そのヒントになれば幸いです。

合唱は、「副旋律→主旋律」の順番で進める方が、容易に学習できるようです。

### ①曲慣れします

「明日という大空」をCDを聴きながら主旋律を歌います。聴く前に、

「2回CDを聴く間に覚えてね。」

「歌えるようになったところから声を出して歌ってね。」

と言っておくと、2回目には何人かが声を出してくれます。歌えた子どもたちを大いに褒めます。(1回で覚えるとはすごいことですから。)

3回目からはだんだん声が増えていきます。もちろん教科書を見てもOKです。1日目で覚えさせようと思うと大変です。4回くらい歌ったらこの日は別の課題をします。

2, 3回、音楽の授業の最初にCDと一緒に歌う時間を取ると、歌うことができるようになります。

### ②合わせると心地よく響く音があることを感じ取らせます

「明日という大空」の楽譜を拡大し、青ペンで1小節目の最初に「ド」、2小節目の最初に「ソ」とカタカナで書きます。

「3つ目は何かな。」

と聞くと

「ラ?」

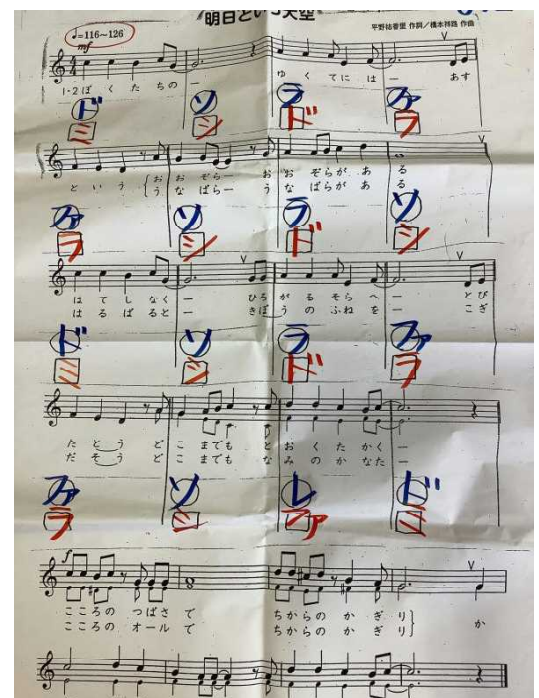
と答えてくれる声が1人2人。

「正解!」

「次は?」

と聞いて書き込んでいきます。子どもたちは、旋律の各小節の最初の音の階名を書き込んでいったことに気が付きます。これを繰り返して4段目の終わりまで書き込みます。子どもたちの楽譜に書き込ませてもよいです。5段目6段目は旋律の感じが変化していることと、長くなりすぎるので省略します。

青ペンで書き込んだ音をリコーダーで吹きます。「ド」の音を1小節4拍分ロングトーンで吹きます。歌唱CDと合わせるときれいに響きます。



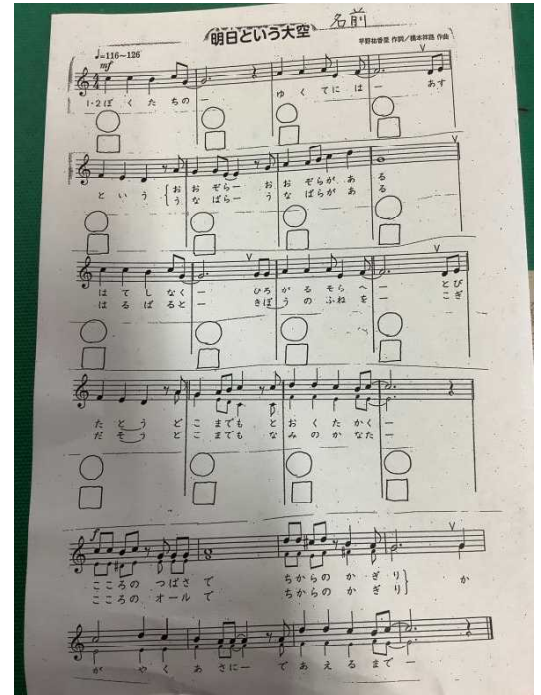
次の時間、赤ペンで1小節目に「ミ」、2小節目に「シ」をカタカナで書きます。さて3小節目は何の音でしょうか？「ド」です。つまり前時に書き込んだ青ペンの音の3度上の音を書き込んでいきます。子どもたちは3つ目辺りで気付きました。

赤で書いた音もリコーダーで吹きます。

青と赤で書いた音を、子どもたちを2つのグループに分けて一緒にリコーダーで演奏すると、とてもきれいです。歌のパートは歌唱CDに任せて3つのパートで合唱奏すると、これもきれいです。

演奏していると自分たちの音にうっとりできます。和音ですから。

こうして3度の音を重ねるとすごくきれいに聴こえる、重なっていると気持ちがいい、という感覚を感じ取らせませす。



### ③ 「つばさをください」の下のパートを覚えます

「つばさをください」の後半はこの3度音程の二部合唱です。ピアノかパートを取り出して聴くことができる音源データを使って、下のパートだけを聴きます。このときも2回聴いている間に覚えられたら、

「その耳はすばらしい。」

と言っておくと、覚えようと一生懸命に聴いてくれます。下のパートを全員で覚えておきます。

### ④ 「つばさをください」の上のパートはできる人だけで歌います

上のパートに取りかかります。耳で聴き覚えがある旋律です。子どもたちにとってはこちらの方が歌いやすいのです。

### ⑤ 合わせます

上のパートを歌いたい人、歌える人を募集します。少し離れたところに集まってもらって歌います。下のパートは先生も一緒に集まって歌います。教室の右と左の壁など、離れていた方がつられにくいのです。

「しろいつばさ、つけてください」の「い」の音から上に上がる方が上のパート、下に下がる方が下のパートです。ここを気を付けて何回かこの部分だけ練習します。「このおおぞらに」の「こ」の音が上がる、下がるができると、この曲はうまくいきます。

③～⑤だけでも合唱になります。今回は、5年生で和音についての学習が少し足りなかったもので、①から順番にやりました。和音の響きの美しさや心地よさを感じ取っておくと、子どもたちの学習意欲が高まります。